

●●● 参加しませんか ●●● みんながあなたを待っています!!



行政に意見を言うだけでなく、できることからやってみよう。
行政と話し合いながら、みんなで何かやってみよう。
障害者やその家族、ボランティアや支援者などが参加して、
「八尾市障害者計画ワーキング会議」が平成14年度からスタートしました。
これは、4年間の私たちの歩みをまとめたものです。
参加しませんか みんながあなたを待っています!!

ワーキング会議は市民参加の窓口です

計画の実施段階への市民参加のしくみ（ワーキング会議）をつくりました

- ワークショップの参加者から、「計画づくりの段階だけでなく、計画実施への市民参加が大切だ」という声が数多く聞かれました。
- これまで「障害者施策推進協議会」がありましたが、市民参加型として誰もが参加できる組織がありませんでした。
- そこで、計画の実施に誰もが参加できる「ワーキング会議」という組織をつくろうということになりました。ワーキング会議は障害者、介護者、ボランティアや NPO などが自主的に活動し、障害者施策のあらゆる段階に市民参加をめざすものとししました。

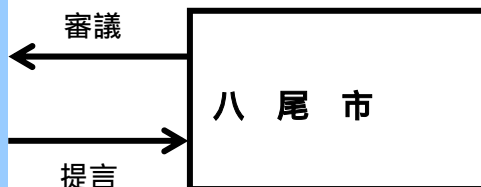
ワーキング会議の2つの目標

施策推進協議会のワーキンググループとして、障害者施策・事業を評価する。

「行政と市民が一緒にする事業」「市民がする事業」など、計画実施の市民参加の窓口となる。

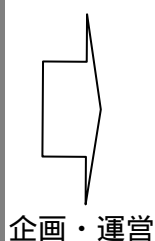
■ 障害者施策推進協議会

- 計画の進捗状況評価、計画の見直しについて、八尾市へ提言する。
- 学識経験者、関係機関、障害者団体の代表、公募市民、行政などで構成する。



■ ワーキング会議

- 施策推進協議会のワーキンググループとして、施策事業を評価する。
- 「行政と市民が一緒にする事業」「市民がする事業」など、計画実施への市民参加の窓口組織となる。
- 障害者、介護者、ボランティア、NPO などで構成する。



■ 市民フォーラム

- 広く市民の意見を聞いたり、啓発活動を行う。
- ワーキング会議の市民メンバーが中心となって運営する。



幅広い市民の参加

市民参加で障害者計画をつくりました

八屋市障害者基本計画 平成15年度(2003年度)～平成19年度(2007年度)

市民参加で障害者計画をつくりました

- 計画づくりの段階から、アンケート、ワークショップ、市民フォーラムなど市民参画の多様な手法を用い、障害者、介護者、ボランティアなどの声を集めました。
- より多くの市民の声を取り入れて、障害者基本計画をつくりました。

取り組み		内 容
障害者施策推進協議会	7回	計画案の検討
アンケート調査	回答 1,601件	障害者ニーズの把握
ワークショップ	5回	生活課題や事業提案のまとめ
第1回障害者フォーラム	1回	計画案の発表 ワークショップ参加者の事業提案の発表



障害者センターの事業を提案しました

参 加 者	平成14年度のワークショップメンバー 29名
平成15年度の目標	障害者基本計画策定段階で「意見を言う場（平成14年度）」から「障害者施策推進協議会のワーキンググループとして計画の評価をする場」「行政と一緒に事業に取り組む“協働”の場」をめざした。
第1回 8/31（日） 2 10/19（日） 3 11/24（日） 4 12/14（日）	○16年度オープンの障害者総合福祉センターについて、4つのテーマ（備品 人員体制 利用方法 事業に関すること）で意見交換 ○事業提案を具体化するために事例を見学 大阪府ITサポートセンター / むつみ荘（精神障害者ショートステイ） ○グループ内で話し合った内容について発表 身障 IT研修・パソコンボランティア / 料理教室 聴覚 パソコン教室 精神 ショートステイ / ピアカウンセリング 知的 生活コミュニティ事業（パソコン教室・料理教室） / 軽体操教室
障害者ふれあいトーク 1/24（日） 市役所大会議室 約110名参加	ビデオ上映 「がべちゃん今を生きる」 シンポジウム 「障害者の今、ここ、わたし - 普通の障害者のありのままトーク」 パネリスト 施策推進協議会委員 / ワーキング参加者（5人） 民生委員児童委員      
第5回 2/8（日）	○今年度の振り返り
平成15年度の成果	○昨年のワークショップと比較して、メンバーの中に市民と行政の「協働」という考え方が芽生えてきた。 ○ワーキング会議をどう育てていくか、障害者が中心となった運営をどのよ

「住まう」「でかける」私たちにできることは？

参 加 者	幅広い参加をめざして新しいメンバーを公募 24 名
平成 16 年度の目標	○ 行政による運営から参加者と行政の協働運営へ移行する。 ○ 施策推進協議会のワーキンググループとして、施策の「住まう」「出かける」について話し合う。自分たちで取り組むことについて話し合う。 ○ 市民への啓発イベントをワーキング会議が中心になって行う。
第 1 回 7/4 (日) 2 9/5 (日) 3 11/7 (日) 4 1/8 (日)	○ 行政と事務局を担う会議運営の世話人 10 名及び障害者フォーラムの実行委員を選出 ○ 施策の「住まう」「出かける」について話し合いたいテーマを出し合い、2 つのグループで進行。 ○ 障害者フォーラム実行委員会を立ち上げ市民への啓発イベントを企画
第 2 回 障害者フォーラム 1/22 (土) 障害者総合福祉センター 約 140 名参加	第 1 部 演劇「かさこ地蔵」 (出演) 文化芸術創造工房あると 劇団どろっぴ 第 2 部 シンポジウム「これってちょっとヘン!? ~ 日常生活の変なこと ~」 (パネリスト) 施策推進協議会委員 ワーキング会議参加者 6 名 終わりに 歌と演奏 手話コーラス「虹」 (出演) 手話サークルどんぐり・ちのちのクラブ
第 5 回 2/8 (火) 6 3/26 (土)	○ 「八尾市における防災対策の現状」 市の担当者から説明 ○ 自分たちで取り組めること 「住まう」グループ 障害別防災マニュアルの作成 「でかける」グループ 放置自転車対策の啓発ビデオの作成、小学校などで配付、講習会をセットにした啓発活動 放置自転車等のパトロール  
平成 16 年度の成果	○ 参加者から選ばれた世話役と行政の協働運営に移行できた。障害者フォーラムは実行委員会による企画、運営が実現できた。

「放置自転車問題」「働く・はげむ」どうしよう？

参 加 者	幅広い参加をめざして新しいメンバーを公募 25 名
平成 17 年度の目標	○施策の「働く・はげむ」「放置自転車に関すること」について話し合う。
第 1 回 5/8 (日)	○施策の「働く・はげむ」「放置自転車に関すること」について、話し合い
2 6/5 (日)	いテーマを出し合い、2つのグループで進行
3 7/3 (日)	○放置自転車追放キャンペーンの実施に向けた検討
4 7/31 (日)	キャンペーンの内容 / 実施回数 / 必要経費 /
5 9/4 (日)	配付するボールペンのメッセージやチラシの内容
6 10/2 (日)	キャンペーン日程 / チラシ配付エリア / 関係機関と打合せの担当
7 11/6 (日)	○一般就労や作業所での就労で困っていることや、必要な支援についての意見交換
8 12/10 (土)	
9 1/28 (土)	○障害者フォーラムの実行委員は、「働く・はげむ」をテーマに市民への啓発イベントを企画
第 3 回 障害者フォーラム 2/4 (日) プリズムホール 約 200 名参加	展示室 授産製品の展示・販売：16 施設の参加 作業所のコマーシャル大会：10 施設の参加 レセプションホール 第 1 部 シンポジウム「働くってなあに？ ～自分らしく輝く～」 (パネリスト) 推進協委員、ワーキング参加者 一般就労、ボランティア活動をする人 就労に向けた訓練をする人 第 2 部 ヒップホップダンス発表 (出演)「レジェンド・キッズ」のみなさん 終わりに 作業所コマーシャル大会審査結果発表
第 10 回 3/26 (日)	○今年度の振り返り
平成 17 年度の成果	○「働く・はげむ」に関する課題は非常に多い上、就労に関する施策や情報が当事者に知られていない。きめ細かな施策の評価を行うためには、関係機関を招いてレクチャーを受けるなどもう少し時間が必要と思われる。

ついに実践!!「ちゃりんこバスターズ」「防災リベロ」

障害者地域福祉 推進事業の活用	○八尾市では、市民自らが行う障害者事業を公募し、実施することになった。 ○ワーキング会議のメンバーが応募し、「放置自転車対策事業」と「障害者防災啓発事業」を実施することになった。
放置自転車対策 事業 (ちゃりんこ バスターズ)	【駅前での放置自転車追放キャンペーン】 12/17(土) 近鉄八尾駅、2/11(土) 近鉄山本駅、3/11(土) JR 八尾駅 いずれも午前・午後2回実施。 参加者 ワーキング会議参加者、警察、市職員など約50名 概要 通行者にボールペンとチラシを配付、自転車を放置しないお願い 点字ブロック上の障害物のパトロール 市内学校への啓発 小・中・高等学校に出向き、児童・生徒に対する啓発
障害者防災啓発 事業 (防災リベロ)	【防災マニュアルの作成】 ワーキング会議メンバーが「障害ごとの防災マニュアル」を作成 【障害者のための防災シンポジウム】 1/15(日) 生涯学習センター 来場者 約100人 概要 防災マニュアルの発表・活用方法の説明 阪神大震災の被災障害者の体験談を聞くシンポジウム
事業の成果	○企画段階から実施まで、すべて市民の力でやり遂げたことにより、メンバー同士がそれぞれの障害に対する理解を深めることができた。 ○どんなことでも行政が担うのではなく、市民同士が協力しながら実施できることが確認できるきっかけとなったと思われる。 ○継続性をどのようにもたせるのか、支援の方法を考える必要がある。



八尾市障害者基本計画ワーキング会議

連絡先 八尾市保健福祉部障害福祉課

〒581-0003 八尾市本町1丁目1番1号

TEL (0729) 24-3838 直通

FAX (0729) 22-4900

刊行物H17-166

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています。